

# 大すきなわたしのひいおじいちゃん

一宮市立今伊勢小学校三年

深見 奏音

わたしの家族に、車いすで生活をしているひいおじいちゃんがあります。ひいおじいちゃんは、わたしがもうすぐ一さいになるという時に、びょう気でたおれてしまったそうです。いのちはたすかったけれども、体の半分がまひしてしまい、自分で歩くことができなくなりました。今まで当たり前のように使っていた手もかた方動かせなくなり、ごはんを食べることも着がえをすることもひとりではできない日がつづいたそうです。自分の体なのに、思ったように動かせないなんて、考えただけでつらいです。でも、ひいおじいちゃんは、今元気に生活しています。ここまでのく八年の間には、ものすごく大へんな時があったけれど、ひいおじいちゃんやおじいちゃん、おばあちゃんのがんばりやおい者さんやヘルパーさんたちをはじめたくさんの人がひいおじいちゃんをたすけようという力をかしてくれたおかげで、ひいおじいちゃんは自分のしょうがいを受け入れて、少しずつ元気になっていったそうです。

わたしは、ひいおじいちゃんの家に行くといつも声が聞こえる左がわに立って話をします。学校でのこと家族のこと、どんな話をしてもいいしょうけんめい聞こうとしてくれます。時どき話しかけてくれるけれど、半分くらいしか聞きとれません。だけど、何となく言いたいことはつたわってきます。体が大きくなり、車いすを動かすこともできるようになりました。家の中ではほとんど動かすひつようはないけれど、へやをい動する時など出番がくると、はりきって手つだいました。だんさに気を

つけ、ひいおじいちゃんの足がかべに当たらないように気をつけ、何よりもこわがらせないようにと気をつけながら。

少し前から、ひいおばあちゃんも体ちようがわるくなり、ひいおじいちゃんはいせつで生活するようになりました。会いに行くと、ねていることが多いですが、そつと手をにぎると目がさめてわたしをじつと見つめます。そして、少しだけえがおになります。しせつの中は広いので、車いすをおしながらゆつくりとさんぽします。とちゅうで、いろいろな人に会い、あいさつをします。言葉をおかわすときも、にこつとわらうだけのときもありますが、あいさつすると心がほかほかします。ここでの時間は、あつという間にすぎ、帰る時にはさみしくなります。さいごはいつも、

「また、来るね！かぜひかないようにすごしてね！」と手をにぎりながらつたえます。

わたしができることは、ほんの少しかもしれないけれど、ひいおじいちゃんが元気になれるならなんだったって思っています。そして、ひいおじいちゃんに元気をくれた人たちのように、わたしもたくさんの人に元気をだしてもらえようなことをしていきたいなと思っています。

